

氏名： 天野 知香 (AMANO Chika)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 准教授  
学位： 博士 (文学) / Ph.D(art history)  
専門分野： 西洋近代美術史  
Art history(modern western art、19-20th french art history、feminist art history)  
E-mail： amano.chika@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

アンリ・マティス/装飾と芸術/フェミニズム美術史/19-20世紀フランス美術史/現代美術  
Henri Matisse / art and art decoratif / Feminist art history / French art history of the 19th-20th century /  
contemporary art

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・天野知香「美術史をほどく：マリー・ヴァシリエフとモダニズムの時代」池田忍、小林緑編、『ジェンダー史叢書 第四巻 視覚表象と音楽』(仮題)、明石書店、2008年刊行予定
- ・翻訳:レミ・ラブリエス「星の友情」『マティスとボナール 地中海の光の中へ』展カタログ、川村記念美術館、神奈川県立近代美術館葉山、2008年。15 - 21頁。
- ・天野知香 「アンリ・マティスー制作と時間」第34回大原美術館美術講座、倉敷アイビースクエアオパールホール、2008年8月2日。

◆研究内容 / Research Pursuits

これまでのアンリ・マティス研究を時間性の枠組みから捉える視点を打ち立てた。また近代における女性芸術家のあり方をめぐる理論的考察を、20世紀の芸術家マリー・ヴァシリエフを例に展開した

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

講義においては「モダン、モダニティ、モダニズム」をテーマに19世紀後半から20世紀初頭の美術の状況を多面的な視点から批判的に捉えて講じた。ゼミにおいては学生の研究発表を指導した他、西歐美術における裸体表象の問題や芸術家の社会的受容の諸問題を文献講読を通じて考察した。

## ◆研究計画

新たに研究テーマとして「装飾と他者」を掲げ、19世紀後半から20世紀にかけての美術史における装飾と他者の位相を明らかにする研究を開始する。19世紀末から20世紀初頭における美術史草創期の装飾研究や「他者」の位相から、20世紀フランスの装飾芸術における他者表象や非西歐の素材や技法の利用、さらには現代美術における装飾と他者の新たな関わりを明らかにする。こうした研究は広範な視野によってより深められることが予想され、本研究のテーマに関わるドイツやイギリスの状況や多様な作品領域の研究など、さまざまな専門分野の研究者と協同的な研究を展開することが可能である。

## ◆メッセージ

私たちの日常を取り巻く視覚表象の意味やあり方はそれが生産され受容される歴史や社会、その欲望や抑圧と切り離せない。「美術」を単に好き嫌いや印象的な鑑賞の対象にとどめるのではなく、今を生きているあなたが、過去や現在のだれかが創った作品をどのように受け止め、そのように受け止めるあなたは誰なのか、考えて欲しい。視覚的なイメージと対話することを通じて、これまでの「私」を揺るがし、時代や社会との関わりを見据え、捉え直してみたい。